

第4学年2組 図画工作科学習指導案

令和6年11月22日（金） 第5校時
場 所 図工室
児童数 25名

1 題材名 「布でえがくと」 絵に表す活動

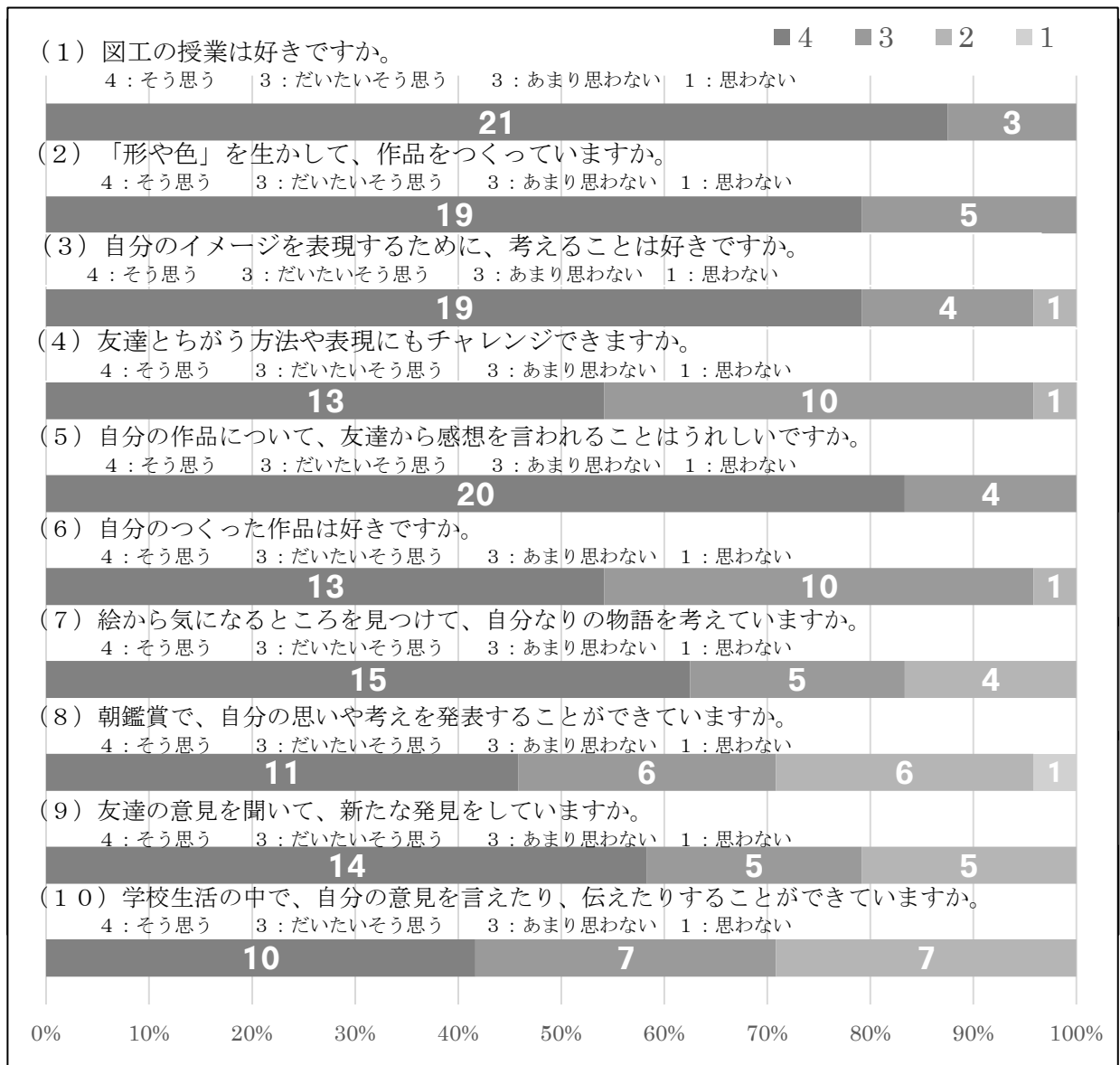
A表現（1）イ、（2）イ、B鑑賞（1）ア、〔共通事項〕（1）ア、イ

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことを考え、形や色、材料などを生かしてどのように表すかについて考えようとする児童が多い。以下は、4月に行ったアンケートの結果である。

【図画工作科の授業についてのアンケート】



上記のアンケート結果の（1）から、9割以上の児童が自分の活動に満足していることが分かる。

4年生になって取り組んだ平面「木々を見つめて」では、単に見た木を再現するのではなく、実際に木を触ったり、見たりしたことから想像を広げ、形や色を工夫して表現していた。その際、前の学習、平面「絵の具のぼうけん 楽しさ発見」で見付けた技法も積極的に取り入れ、自分の表したいことに近付けようとする児童の姿が多く見られた。一方、立体「つないで、組んで、すてきな形」では、紙バンドを用いて、表しながら表したいことを考えていくことが難しかったようで、班ごとに同じような形の作品ができあがってしまった。明確に表したいことを見付けられず、不安になったことから友達の見よう見まねになってしまったと考えられる。このことから、試す中で材料の特徴を捉え、自分のイメージを明確にしたり価値付けたりする時間を設けることが一層必要だと感じた。そこで、平面「へんてこ山の物語」では、自分でつくったへんてこ山の形から表したいことを見付け、描きながら想像を広げ、だんだんと表したいことが明らかになるという題材を通して、自分のイメージをもちながら発想や構想をすることを大切にした指導を行った。特に、振り返り活動では、視点を提示し、「何を表したかったのか。」「表したいことを表すために、どんな表し方をしたのか。」「次はどうしたいのか。」を毎時間書くようにした。また、中学年は表したいことが初めからはっきりしているとは限らないこともあることから、表したいことがだんだん変わっていても良いことも伝えてきた。途中で発想や構想が停滞してしまう児童には、前時までの振り返りやアイデアを書きとめた記録をもう一度見返すよう助言すると、「〇〇が足りなかった！」と思考を繰り返す児童も多かった。今回の授業も、振り返りシートや前時までの学習に立ち戻れるよう掲示を工夫していく。

(2) 学習指導要領上の位置付け

本題材は、学習指導要領の次の内容を受けて設定している。

- A (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
- A (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
- B (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
- [共通事項] (1)
- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
- イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

(3) 本題材を指導するに当たって

本題材は、様々な布に出会い、色の感じや組合せから感じたことを基に、表したいことを見付け、布の感じを生かしながら工夫して絵に表す題材である。

知識及び技能の観点では、材料がもつ形や色の感じ、それらの組合せによる感じを捉えられるように、多様な模様、質感の布を用意し、見たり、触れたり、試したりする時間を十分に確保する。接着剤の使い方を振り返り、表したいことに合わせて用具を活用することで、自分なりの表

し方を工夫できるようにする。

思考力、判断力、表現力等の観点では、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じから自分のイメージをもつことを大切にするために、自分のイメージに関して自然と発する言葉や、友達と語り合っている言葉に着目する。教師は児童が感じたことを共感的に捉え、言い換えたり、思考を整理するような声かけをしていく。また、材料を取りに行く際に、友達の工夫に気付けるように、材料置き場を図工室の中央に設け、動線を工夫する。また、材料の形や色、模様、組合せなどを試している児童を認め、他の児童へ紹介をする。毎時間の振り返りの際に自分のイメージを言語化し、児童の表したいことがだんだんと明らかになるよう見える化していく。

学びに向かう力、人間性等の観点では、表したい世界に浸り、楽しんで表している様子やつぶきやきに着目し、認める声かけをする。また、表したいことに合わせて、材料の組合せを変えたり、付け加えたりすることを促し、児童が粘り強く活動に取り組むことができるようにする。

題材を通した指導においては、様々な色や質感の布を用意し、それぞれの質感を味わったり、組み合わせたりして思いを表せるように配慮する。今回使用する布は、埼玉県内の地域の方々からいただいたものである。様々な色や質感の布をたくさん準備することで、児童の発想や構想をさらに膨らませることができると考える。一方、ただ並べたり重ねたりを繰り返しているだけになったり、題名をつけるときにその場で思い付いたことを書いたり、無理矢理何かに見立ててイメージを決めたりしてしまう可能性もある。

そこで、第1時では、布に触れ、感じたことや思ったことを話しながら、色や質の感じを十分に感じる時間を設ける。ここで、形による見立てから発想するのではなく、組合せの感じに着目するように声かけをする。そのため、最初に渡す布の形を四角形に制限し、色や質感に注目できるようにした。第2時では、布を組み合わせることで生まれた感じから表したいことを見付けて絵に表す。授業の終わりにどんな自分のイメージをもったのか、表したいことを明確にするために言語化する振り返り活動を行う。ここでは、表したいことを見付けることに重きをおき、必ずしも絵に表れなくてもよいことにする。第3時では、布の貼り方を工夫してどのように表すかについて考えを広げるために、どこにどのように貼っていくか、基底材の向き等にも着目させて表現するように伝える。また、次時の「どのように表していくか考えていく」ことにつなげられるよう、この時間までに表したいことを明確にすることが大切である。さらに、自分の考えや活動を問い直しながら表したいことの表し方を工夫したり、計画を立てたりすることができる児童が増えていくように、声かけをしていく。第4時では、布以外にも段ボールや梱包材など異素材も使えるようにし、前時までに見つけた表したいことの実現に向けて、工夫して表す。第5時では、互いの作品を見合い、作品の面白さや表し方の工夫を伝え合う。

一方で、本題材も表したいことを見付けられない児童や、友達の表現をまねてしまう児童もいると予測される。そこで、活動が停滞している児童には布や布の組み合わせた感じと一緒に鑑賞をし、どのようなイメージをもったか、どこが気に入っているのかを教師が問うことで見方や感じ方を広げられるようにする。または、教師がその表現の中にある、その児童自身の表現を見取り、価値付ける声かけをすることで、児童が自分の表現のよさに気付くことができるようにする。その気づきを基に、本題材における発想や構想の学びを次の学習に生かすことができるようにする。

3 学校研究主題との関連

(1) 研究主題

「思い」を生かして、生き生きと表現する児童の育成

(2) 研究主題に迫る手立て

手立て①材料や用具と向き合う時間の設定と「児童の気づきに共感する働きかけ」(第1時)
(知識及び技能)

→様々な種類の布を用意し、布の感じを捉える時間を十分に設けることで、色や質感の感じ、それらの組合せによる感じがわかるようにする。

手立て②-1 表したいことを見付けるための「自己決定のきっかけづくり」(第2時、第3時)

(思考力、判断力、表現力等)

→表したいことのイメージについて話し合い、具体物だけでなく抽象的概念(気持ち・動き・様子・時間等)も形や色で表せることを捉え、児童の発想の幅を広げるようにする。
→ICT機器に撮りためた前時の活動をもう一度見返すことで、表したいことのイメージを広げるようにする。

手立て②-2 自分の見方や感じ方を広げるための「対話を生み出す」工夫(第2時、第3時)

(思考力、判断力、表現力等)

→図工室の中央に材料コーナーを用意し、児童が使いたい材料の場へ移動することで、友達の世界を見ながら自然と対話できるようにする。

手立て③ つくりだす喜びを味わい、夢中になって活動する児童を育成するための「語る」場の設定(第4時、第5時)

(学びに向かう力、人間性等)

→アイデアコーナーに友達の見つけた組合せを掲示し、友達と自然に鑑賞をできるようにする。

4 題材の目標及び評価規準(※【共通事項】ア、イはア_____、イ_____)

(1) 目標

- ・様々な形や色、質感の布を組み合わせる絵をつくる時の感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどがわかる。
- ・身近材料、接着剤などを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(知識及び技能)
- ・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。
- ・様々な形や色、質感の布を組み合わせる感じたことから、表したいことを見付けることや、表したいことを考え、形や色、布の質感などを生かしながらどのように表すのかについて考える。
- ・自分たちの作品や製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・進んで様々な形や色、質感の布を組み合わせる絵をつくる活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本題材における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 様々な形や色、質感の布を組み合わせる絵をつくる時の感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどがわかっている。	発 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもち、様々な形や色、質感の布を組み合わせる感じたことから、表したいことを見付けることや、表したいことを考え、形や色、布の質感などを生かしながらどのように表すのかについて考えている。	態 つくりだす喜びを味わい、進んで様々な形や色、質感の布を組み合わせる絵をつくる活動したり、鑑賞した
技 身近材料、接着剤などを	鑑 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによ	

<p>適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>る感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>りする活動に取り組もうとしている。</p>
--	--	--------------------------

5 人権教育上の視点

お互いの個性を認め合い、発想や考えの多様性を尊重する心を育てる。【多様性の尊重 [態度]】

6 指導と評価の計画（全5時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

学習のねらい・学習活動		評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑	態	
1	<ul style="list-style-type: none"> 布の組合せの感じを味わい、組合せ方で見え方や感じが違っていることに気付く。 色や質の感じ、その組合せによる感じの違いに着目して、布を触ったり組み合わせたりする。 	◎					<ul style="list-style-type: none"> 1時間目は「知識」の視点で、児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。 2時間目は「思考・判断・表現」の視点で、児童がどのようにイメージを持っているかを把握し、記録に残す。それを踏まえて3時間目に「思考・判断・表現」（発想や構想）の視点で児童が表したいことを見付けている姿を捉え、指導に生かす。 4時間目は「技能」の視点で、児童の学習状況を把握し、記録に残す。 5時間目は「思考・判断・表現」（鑑賞）の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。さらに「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して、把握し、最後に記録に残す。
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った組合せをためしながら、表したいことを見付ける。 	○		◎			
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 布の組合せから、感じたことをさらに広げながら表したいことの自分のイメージを広げる。 表したいことに合わせて表し方を工夫する。 		◎	○			
5	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの表したものを鑑賞し合い、自分の見方や感じ方を広げる。 				◎		
					◎		

7 本時の指導（2／5時間）

(1) 目標 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもち、様々な形や色、質感の布を組み合わせることで感じたことから、表したいことを見付ける。

【思考力, 判断力, 表現力等】

(2) 準備 教師：基底材（白段ボール）、布、へら、アルミ皿、木工用接着剤、教師用 I C T 端末、手拭きタオル

児童：学習者用 I C T 端末

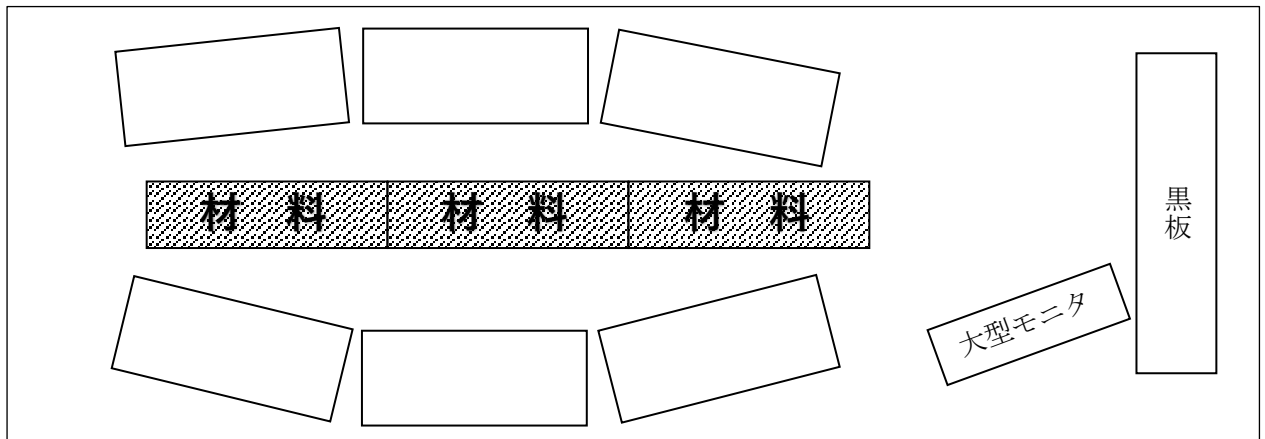
(3) 展開

過程 時間	学習の流れ T：教師の発問 C：児童の反応	○：指導の工夫 ☆：研究の手立てに係る内容 〔共〕：共通事項に係る内容	評価規準 【評価方法】
導入 7分	<p>1 表したいことのイメージについて話し合う。</p> <p>T 布の組合せからどんな感じがしましたか。</p> <p>C 「緑と白の布を組み合わせたら、さわやかな感じになりました。」</p> <p>C 「ピンクの布を組み合わせたら春の感じになりました。」</p>	<p>○好きな感じを組み合わせることを基に、色や布の質感から自分のイメージをもちながらつくっていくことを確認する。〔共〕</p> <p>☆表したいことのイメージについて話し合い、具体物だけでなく抽象的概念（気持ち・動き・様子・時間等）も形や色で表せることを捉え、児童の発想の幅を広げるようにする。〔手立て2-①〕</p>	
	<p>提案 布を組み合わせる感じから、表したいことを見付けよう。</p>		
展開 30分	<p>2 本時のめあてを知る。</p>	<p>○本時の活動の終わりの時刻を確認し、今日までに組み合わせる材料は接着しても良いことを伝える。</p> <p>○接着剤の使い方について説明する。</p>	
	<p>3 材料の組合せを試しながら場所を考えて置いていく。</p> <p>C 「この布が、お母さんの持っているものに似ているから、お母さんを表してみようかな。」</p> <p>C 「薄い生地や隙間のある布を重ねると、見え方が変わっていい感じ。優しさを表せそうだな。」</p>	<p>☆材料コーナーを図工室の中央に置き、自由に行き来しながら活動できるようにするとともに、周りの友達の作品を鑑賞したり、対話したりできるようにする。〔手立て2-②〕</p> <p>○児童が布を組み合わせる様子や、布をおいたときに、どんなことを考えているのかについて話を聞くことで、形や色、重なりなど、本題材での視点を確認するとともに、自信をもって活動できるようにする。</p> <p>○ I C T 機器に撮りためた前時の活動をもう一度見返すことで、表したいことのイメージを広げるようにする。</p>	<p>発 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもち、様々な形や色、質感の布を組み合わせることで感じたことから、表したいことを見付けている。（観察・対話・e-ポートフォリオ）</p>

		<p><u>〔手立て2―①〕</u></p> <p>○表したいことはこの時間に決定しなくても良いことを伝える。しかし、授業の最後にどんな自分のイメージをもったのかを振り返る活動があることを伝える。</p> <p>○<u>活動だけで終わらないように、見付けた「表したい自分のイメージ」を考えるよう声かけをする。〔共〕</u></p> <p>○表したいことが見付かってきた児童には、どこに表すか声掛けをすることで、どのように表すか考えることができるようにする。</p> <p>○発想が膨らまない児童には、好きな感じの組合せを何度も試すように声かけをすることで、自分の表したいことを見付けられるようにする。</p> <p>○授業の後半で、好きな感じは見付けられているが、表したいことに結びかない児童には、教師と対話をしながら、自分のイメージを言語化し、表したいことが明確になるようにする。</p>	
整理 8分	<p>4 布の組合せを様々な試して見付けた、表したいことを発表する。</p> <p>C 「カラフルな色を集めたら心の中を表しているように見えてきました。」</p> <p>C 「茶色の布を重ねていたら、お父さんのように見えてきました。次の時間はお父さんは優しいので、真ん中に優しい感じのする布を置いてみようと思います。」</p> <p>C 「赤の布を何枚も組み合わせることで、熱い心を表すことができました。」</p> <p>5 次時の流れを確認する。</p>	<p>○代表2名の児童に「どんな組合せをしたのか、それによってどんな感じになったのか」について話してもらい、振り返りの視点を全体で確認する。</p> <p>○自分のイメージの変容を振り返ることができるように、写真や言葉で記録しておくようにする。</p> <p>○次時は、表したいことの自分のイメージを広げることがを伝え、見通しをもてるようにする。</p>	

8 場の設定

周りの友達作品を鑑賞しながら活動できるよう、材料の場所を図工室の中心にした。自分や友達の作品を鑑賞する中で、次時で更に表したいことを広げられるようにする。



9 板書計画

